

はじめに

北海道大学理学部 赤石 義紀

「石の上にも三年」と言うことばがありますが、荷電粒子核反応データベース（NRDF）を事業としてはじめてから三年が経ち、データもある程度蓄積できて、それをもとに新しい展開を考える余裕が出来てきたように思います。そこで、今年度は、国内の原子核実験研究者を対象に広く意見をお聞きするアンケートを実施いたしました。多くの方々から貴重な御意見をいただきましたので、私ども管理運営委員会では、可能なものから実行に移していきたいとおもっております。また、NRDFのデータベース作成に将来いろいろなかたちで協力してもよいとの申し出もいただきました。このことは、日本で生産される核反応データの収集に責任を持つ体制をかんがえる上で、大きな励ましとなるものです。

国際協力によって、長期に安定したデータベースを維持していく課題も、ゆっくりとではありますが着実に進んできています。国際原子力機関（IAEA）の第10回核反応データセンター（NRDC）ミーティングでは、データ交換について詳細な打ち合わせをおこなってきました。この方向が軌道にのるよう、今後の活動をいっそう組織化していこうとおもっています。

蓄積データが増えて来たことと、また、核反応の種類が時とともに少しずつ変わって来たこともあって、NRDFの辞書を修正・追加することが必要となってきました。この冬には厳寒の札幌で、入力データの作成担当者を含めて研究会をもち、辞書と文法について検討をおこないました。今後さらに検討を加え、より良いものにつくりあげようとしています。

最後に、アンケートに御回答いただいた方に、この場をかりて、お礼申しあげます。ひきつずき、率直な御意見と御批判を乞う次第です。